

第1編 総則

1-3-1 男鹿市防災会議条例

平成17年3月22日

条例第14号

改正 平成24年9月28日

条例第23号

(趣旨)

第1条 この条例は、災害対策基本法(昭和36年法律第223号)第16条第6項の規定に基づき、男鹿市防災会議(以下「防災会議」という。)の所掌事務及び組織に関し必要な事項を定めるものとする。

(所掌事務)

第2条 防災会議は、次の各号に掲げる事務をつかさどる。

- (1) 男鹿市地域防災計画を作成し、及びその実施を推進すること。
- (2) 男鹿市水防計画を調査審議すること。
- (3) 市長の諮問に応じて市の地域に係る防災に関する重要事項を審議すること。
- (4) 前号に規定する重要事項に関し、市長に意見を述べること。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、法律又はこれに基づく政令によりその権限に属する事務。

(会長及び委員)

第3条 防災会議は、会長及び委員をもって組織する。

- 2 会長は、市長をもって充てる。
- 3 会長は、会務を総理する。
- 4 会長に事故あるときは、あらかじめ会長が指名する委員がその職務を代理する。
- 5 委員は、次に掲げる者をもって充てる。
 - (1) 指定地方行政機関の職員のうちから市長が任命する者
 - (2) 秋田県の知事の部内の職員のうちから市長が任命する者
 - (3) 市の区域の全部又は一部を管轄する警察署の警察署長又はその指名する職員
 - (4) 市長がその部内の職員のうちから指名する者
 - (5) 市の教育委員会の教育長
 - (6) 市の消防長及び男鹿市消防団長
 - (7) 関係公共機関及び関係地方公共機関の職員のうちから市長が任命する者
 - (8) 自主防災組織を構成する者又は学識経験のある者のうちから市長が任命する者
 - (9) その他特に必要と認め、市長が任命する者
- 6 前項に規定する委員の定数は、30人以内とする。
- 7 第5項第7号から第9号までの委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、

その前任者の残任期間とする。

8 前項の委員は、再任されることができる。

(専門委員)

第4条 防災会議に専門の事項を調査させるため、専門委員を置くことができる。

2 専門委員は、関係指定地方行政機関の職員、秋田県の職員、市の職員、関係指定公共機関の職員、関係指定地方公共機関の職員及び学識経験のある者のうちから市長が任命する。

3 専門委員は、当該専門の事項に関する調査が終了したときは、解任されるものとする。

(部会)

第5条 防災会議は、その定めるところにより、部会を置くことができる。

2 部会に属すべき委員及び専門委員は、会長が指名する。

3 部会に会長を置き、会長の指名する委員がこれに当たる。

4 部会長は、部会の事務を掌理する。

5 部会長に事故あるときは、部会に属する委員のうちから部会長があらかじめ指名する者がその職務を代理する。

(委任)

第6条 この条例の施行に関し必要な事項は、会長が防災会議に諮って定める。

附 則

この条例は、平成17年3月22日から施行する。

附 則（平成24年9月28日条例第23号）

この条例は、公布の日から施行する。

1-3-2 男鹿市防災会議委員

会 長 男 鹿 市 長

	機 関 名	職 名	条例区分	備 考
1	秋 田 県 海 上 保 安 部	次 長	第1号	
2	秋田地域振興局秋田中央保健所	所 長	第2号	
3	秋田地域振興局総務企画部	部 長	第2号	
4	秋田地域振興局農林部	部 長	第2号	
5	秋田地域振興局建設部	部 長	第2号	
6	船 川 港 湾 事 務 所	所 長	第2号	
7	男 鹿 警 察 署	署 長	第3号	
8	男 鹿 市	副 市 長	第4号	
9	〃	市民福祉部長	第4号	
10	〃	観光文化スポーツ部長	第4号	
11	〃	産業建設部長	第4号	
12	〃	教 育 次 長	第4号	
13	〃	男鹿みなと市民病院事務局長	第4号	
14	〃	企 業 局 長	第4号	
15	〃	教 育 長	第5号	
16	男鹿潟上南秋消防組合	消 防 長	第6号	
17	男 鹿 市 消 防 団	団 長	第6号	
18	男 鹿 郵 便 局	局 長	第7号	
19	東日本電信電話（株）秋田支店	支 店 長	第7号	
20	JR東日本東北総合サービス（株）秋田支社	駅 長	第7号	
21	東北電力ネットワーク（株）秋田電力センター	所 長	第7号	
22	秋田中央トランスポート交通（株）男鹿営業所	所 長	第7号	
23	秋 田 大 学	大 学 院 教 授	第8号	
24	自 主 防 災 組 織	代 表 者	第8号	
25	男 鹿 市 建 設 業 協 会	会 長	第9号	
26	男 鹿 市 連 合 婦 人 会	会 長	第9号	
27	男 鹿 市 社 会 福 祉 協 議 会	会 長	第9号	
28	男 鹿 保 育 会	会 長	第9号	

1-5-1 災害記録

番号	発 生 年 月 日	災 害 名	発 生 地 域	被 害 の 状 況
1	昭和2年 8月5日 (1927年)	火 災	船 川 港 町	8月5日2時船川港町の駅前から出火、西本町、東本町に燃え広がり、4時30分までの間に郵便局のほか住家157戸127棟、非住家46棟全焼した。 被害額は、219,000円に上がった。
2	昭和8年 9月5日 (1933年)	台 風	市 全 域	日本海沿岸に進んだ台風により住家全壊19戸、半壊16戸、高波による浸水79戸、非住家全壊16棟、半壊45棟、漁船流出32隻、破損30隻の被害を受けたほか、運動会に出席するため船で八郎潟を渡っていた船越青年団員27名は途中この暴風に会い遭難し、船越青年団19名が溺死した。また、農作物も梨の落果、稲の倒伏などの被害を受けた。
3	昭和8年 10月8日 (1933年)	火 災	船 川 港 町	10月8日、20時15分船川港町栄町小玉風呂屋から出火、元浜町に燃え移り、住家160戸184世帯を全焼して23時20分ようやく鎮火した。 大火の原因は消防ポンプが故障していたことと、風呂屋のおが屑火が飛び散ったためで損害30～35万円に上がった。
4	昭和9年 7月～8月 (1934年)	低 温 凶 作	船 川 港 町	7月から8月までの間、日平均気温が平年より高めとなった日が4日しかなく、また最高気温が30℃を超えた日は1日もなかった。この結果7月の平均は20.9℃で平年より1.6℃低く、また8月は21.8℃で平年より2.4℃低めとなり、大正2年依頼の低温となった。また船川法面は7月2℃以上低め、8月は3℃以上低めとなったので稲作に大きい影響を与えた。
5	昭和10年 10月26日 (1935年)	火 災	船 越 町	10月26日23時58分、船越町中町裏通り郵便局付近から出火、住家146戸を全焼して27日2時ころ鎮火した。
6	昭和14年 5月1日 (1939年)	地 震	全 域	5月1日14時58分、男鹿半島を中心とする強い地震が発生した。震央は中央気象台の発表(6月2日11時)によればE139°33' N40°03' (男鹿中村浜間口付近)で震度は男鹿半島6、県内の大部分は5、震源の深さは約10kmで土崎では27cmの小津波も観測された。また有感の余震は1日28回、2日11回あった。このため男鹿半島を中心に死者28名、負傷者127名、住家全壊565戸、半壊1,089戸、焼失9戸の被害がでた。また鉄道や道路の被害も大きく、北は能代付近から南は本荘付近まで至る所に亀裂や土砂くずれがあり、船川線や奥羽線は不通となった。
7	昭和18年 8月16日 (1943年)	大 雨	船 川 港 町	8月16日から18日にかけて日本海を北上通過した低気圧のため、秋田123.8mm、石見三内172.8mm、船川140.5mm、鷹巣111.1mm、粕毛156.7mmの大雨となった。 このため、船川に浸水の被害がでた。

番号	発 生 年 月 日	災 害 名	発生地域	被 害 の 状 況
8	昭和 20 年 4 月 16 日 (1945 年)	火 災	北 浦 町	4 月 16 日 12 時から 14 時までの間に北浦町安全寺で国民学校ほか住家 26 棟、非住家 13 棟を焼失。
9	昭和 20 年 12 月 18 日 (1945 年)	強 風	船 川 港 町	12 月 17 日通過した気圧の谷の上の低気圧が 18 日千島列島南方で 94.9mb に発達した。このため、船川港町で住家倒壊 3 棟、大破 3 棟、非住家大小破 16 棟の被害が出た。
10	昭和 22 年 7 月 21 日 (1947 年)	大 雨	船 川 港 町	7 月 21 日から 24 日にかけて東北地方に前線が停滞したため、100mm 以上の雨が 2 日間も続き住家流出 1 戸、床上浸水 8 戸、床下浸水 91 戸、田の冠水 703ha、畑の冠水 22ha、堤防決壊 1 ヶ所にのぼる被害が発生し、また鉄道は 23 日以降不通となった。
11	昭和 27 年 5 月 30 日 (1952 年)	火 災	戸 賀 村	5 月 30 日 11 時 20 分ころ戸賀村で火災が発生、住家など 66 棟 61 世帯を全焼し、15 時 30 分鎮火した。
12	昭和 31 年 1 月 18 日 (1956 年)	火 災	男 鹿 中	1 月 18 日 3 時 55 分、男鹿中中学校から出火、同校舎 1,406 m ² を全焼し、5 時 30 分鎮火した。
13	昭和 32 年 12 月 13 日 (1957 年)	突 風	男 鹿 沖	12 月 13 日貨物船雲海丸 (2,440t) が男鹿半島沖で突風にあい座礁した。
14	昭和 34 年 9 月 18 日 (1959 年)	台 風 (14 号)	全 域	9 月 18 日、台風 14 号は朝鮮海峡を経て 3 時には秋田沖 300km の海上に達し北上、夜半には宗谷海峡からオホーツク海に抜けた。船川消防署で 23m/sec を記録し 10m/sec 以上の強風は 20 時ごろまで続き、このため八森町、男鹿市、由利郡の沿岸地方の高潮により、死者 1 名、負傷者 3 名、住家流出 1 棟、全壊 77 棟、半壊 39 棟、一部破損 47 棟、床上浸水 3 棟、床下浸水 135 棟、非住家破損 44 棟、田の冠水 10ha、河川 3 ヶ所、海岸 21 ヶ所、道路 16 ヶ所、漁船の流出 9 隻、破損 95 隻、漁網の流出 6 ヶ統などの被害がでた。
15	昭和 36 年 1 月 3 日 (1961 年)	山 崩 れ	戸 賀 中 男 鹿	1 月 3 日から 4 日にかけて、男鹿半島一帯に降雨があり、このため戸賀、男鹿中両地区で 3 ヶ所に山崩れがあり、住家 2 棟が全半壊したほか畜舎等が破損した。
16	昭和 36 年 1 月 26 日 (1961 年)	高 潮	全 域 (沿岸部)	1 月 26 日午後高潮のため海岸部の男鹿、仁賀保、本荘、西目、金浦、八森で土木施設 13 ヶ所、水産施設 14 ヶ所などの被害がでた。
17	昭和 36 年 12 月 9 日 (1961 年)	遭 難	北 浦	12 月 9 日 4 時 40 分頃、男鹿市北浦相川漁港沖合 200m 付近で漁船の遭難行方不明者 6 名
18	昭和 37 年 2 月 17 日 (1962 年)	火 災	北 浦	2 月 17 日 0 時 10 分、男鹿市北浦鹿山小学校の家庭科教室付近から出火、同校舎 2 棟 2,924 m ² を全焼し 2 時 30 分鎮火した。

番号	発 生 年 月 日	災 害 名	発 生 地 域	被 害 の 状 況
19	昭和 37 年 9 月 28 日 (1962 年)	突 風	船 川 港 沖 入 道 崎 沖	入道崎沖 9 月 28 日 7 時頃、男鹿市北浦入道崎から北西方約 17.8km の沖合で島根県浜田市長浜笑子漁業船団の第 25 猛丸の乗船員 11 人が操業中 15m の突風にあおられ転覆し、また 11 時頃、船川港西南西方 25.7km の沖合で長崎市西山町漁船第 3 三勢漁丸 (59t 乗組員 19 人) が激しい浸水事故を起こしたが巡視船に誘導され、14 時 30 分無事に船川港に入港救助された。
20	昭和 37 年 11 月 4 日～5 日 (1962 年)	強 風	船 川	11 月 4 日から 5 日にかけて暴風雨となり 3 時 20 分瞬間最大風速 28.3m を記録し、男鹿市船川港棧橋、船着き場、堤防改修工事の土止の基礎約 40m にわたって流出。
21	昭和 37 年 11 月 29 日 (1962 年)	漁 船 遭 難	北 浦	11 月 29 日男鹿市北浦の相川沖合でハタハタ船一隻が転覆、乗っていた 6 人が海中に投げ出され 1 名行方不明となった。
22	昭和 37 年 11 月 29 日 (1962 年)	竜 巻	船 越	11 月 29 日午後、男鹿市船越水道から八郎潟にかけて竜巻が発生、農林省八郎潟干拓事業所修理工場 66 m ² を破損、その他多数の住家、非住家に被害があった。
23	昭和 37 年 12 月 29 日 (1962 年)	強 風	北 浦	12 月 29 日 19 時頃、男鹿市北浦第一漁港所属の大漁丸 (2t) はハタハタ漁から帰港中相川沖約 100m で大波にのまれ転覆し、乗組員 1 名が行方不明になった。
24	昭和 38 年 2 月 6 日 (1963 年)	雪 害	船 川	2 月 6 日 4 時頃、男鹿市船川港新浜町で作業倉庫 1 棟 92 m ² が倒壊。
25	昭和 39 年 4 月 4 日 (1964 年)	土砂くずれ	脇 本	4 月 4 日日本海を発達した低気圧をが通過したため八郎潟で 70mm の大雨があった。このため 6 時 50 分男鹿市脇本浦田菅ノ沢で高さ 7m のがけが幅 10m にわたってくずれ落ち、住家が土砂とともに押し流され 4 名死亡した。
26	昭和 39 年 5 月 7 日 (1964 年)	地 震	男鹿北西沖	5 月 7 日 16 時 58 分、男鹿半島北西を震源とするマグニチュード 6.9 の地震が発生、県内の震度は 5～3 度で被害地域は男鹿市、琴浜村、八竜町、能代市などで柔化の全壊 3 戸、半壊 2 戸、一部破損 49 戸、床上浸水 1 戸、床下浸水 26 戸のほか八郎潟干拓工事現場において承水路堤防の一部が沈下、亀裂等の被害がでた。なお本地震の発生に引き続き大小の余震が頻発し、12 日後の 20 日までに 350 回以上の余震があった。
27	昭和 39 年 6 月 16 日 (1964 年)	地 震	全 域	6 月 16 日 13 時 2 分 7 秒、新潟沖を震源とする強い地震があった。県内各地の震度は秋田、鎗畑、横手、尾去沢は 4 (中震)、鷹巣、能代は 3 (弱震) で秋田市、男鹿市、本荘市などの沿岸部で死者 5 名、負傷者 30 名のほか、住家の全壊 13 戸、半壊 147 戸、一部破損 4,196 戸、床上浸水 8 戸、床下浸水 129 戸、非住家 1,862 棟の被害がでた。

番号	発 生 年 月 日	災 害 名	発生地域	被 害 の 状 況
28	昭和 39 年 8 月 6 日～7 日 (1964 年)	大 雨	全 域	8 月 6 日午後から 7 日朝にかけて県北部を中心に強い雨が降り、岩館 214mm、藤里 184mm、五城目 126mm、大館 118mm、秋田 78mm を記録した。このため、県北部を中心に死者 2 名、負傷者 2 名、住家の全壊 47 戸、半壊 26 戸、一部破損 4、床上浸水 401 戸、床下浸水 1,518 戸、非住家 93 棟のほか水道、農業、林業、土地改良、土木などに被害、男鹿市に災害救助法が適用。
29	昭和 39 年 12 月 11 日 (1964 年)	地 震	男鹿半島沖	12 月 11 日 0 時 11 分、男鹿半島沖を震源とする強い地震が発生し、このため八郎潟干拓地の堤防が 20cm 沈下の被害がでた。
30	昭和 40 年 5 月 20 日 (1965 年)	火 災	脇 本	5 月 20 日 21 時 15 分頃、男鹿市脇本富永字大倉から出火、住家 13 棟 15 世帯、非住家 19 棟を全焼、さらに寒風山に燃え移り、原野約 40ha を焼いて 21 日 13 時頃鎮火した。
31	昭和 40 年 11 月 5 日 (1965 年)	集 中 豪 雨	戸 賀	11 月 5 日 9 時 10 分頃から約 1 時間にわたって男鹿市戸賀一带に約 100mm の集中豪雨があり死者 2 名、負傷者 3 名、住家全壊 12 戸、半壊 2 戸、一部破損 8 戸。床上浸水 31 戸、床下浸水 51 戸、非住家 20 棟など厚生関係、農林水産、土地改良、河川等全般に被害がでた。
32	昭和 40 年 12 月 1 日 (1965 年)	遭 難	北 浦	12 月 1 日 13 時 30 分頃、男鹿市北浦相川漁港沖合 30m の海上で操業中のハタハタ漁船大竜丸(約 3t 乗組員 6 名) が横波を受けて転覆、1 名が行方不明になった。
33	昭和 41 年 2 月 9 日 (1966 年)	遭 難	入 道 崎	2 月 9 日 19 時すぎ、男鹿半島入道崎南西役 800m の海(岸から約 100m) で漁を終えて船川に帰港途中の底引き漁船第 7 千章丸が座礁し乗組員 8 名全員が死亡した
34	昭和 41 年 8 月 12 日 (1966 年)	集 中 豪 雨	戸 賀	8 月 12 日夜から 13 日朝にかけて雷を伴った集中豪雨があり、男鹿市戸賀浜塩谷字枝沢で地すべりが発生、住家に被害がでた。
35	昭和 41 年 11 月 17 日 (1966 年)	土砂くずれ	戸 賀	11 月 17 日 18 時 20 分、男鹿市戸賀字割水の県道で降雨のため土砂くずれがあり、30m にわたって道路を閉鎖した。
36	昭和 48 年 10 月 29 日 (1973 年)	土砂くずれ	男 鹿 中	10 月 29 日、日本海南部と四国沖に低気圧があつて北東に進んだため、28 日夜半から風雨が強まり、秋田で 32mm を記録、このため男鹿市仲間口で土砂くずれが発生し、住家の一部を破損するなどの被害がでた。
37	昭和 50 年 2 月 24 日 (1975 年)	風 浪	北浦、椿、 加茂、脇本	2 月 24 日、朝鮮北部から発達しながら東北東に進み、26 日北海道の東海上に去った低気圧のため秋田では 26 日 4 時 5 分最大瞬間風速 31.0m/s、秋田港向浜で 26 日 6 時波の高さ 9.92m を記録した。このため北浦、椿、加茂、脇本、各漁港の消波堤等に大きな被害を受けたほか、土木関係などの被害もでた。

番号	発 生 年 月 日	災 害 名	発生地域	被 害 の 状 況
38	昭和 52 年 11 月 19 日 (1977 年)	竜 巻	脇 本	11 月 19 日、秋田沖に低気圧があつてこれより南西にのびる寒冷前線が日本海沿いに走り、気層が不安定となった。このため竜巻が発生し、建物 4 棟に被害がでた。
39	昭和 54 年 5 月 5 日 (1979 年)	火 災	脇 本	5 月 5 日 10 時頃、寒風山で原野火災が発生、70ha を焼失した。
40	昭和 55 年 1 月 7 日 (1980 年)	地 す べ り	戸 賀	1 月 7 日、男鹿市加茂字中袋の有料道路が約 36m にわたって崩落する被害がでた。
41	昭和 55 年 10 月 26 日 (1980 年)	強 風	全 域	10 月 26 日から 27 日にかけて朝鮮半島付近と四国付近にあった低気圧が発達しながら北北東に進み通過した。進行速度が極めて遅かったために強風の吹続、吹走時間が長かったため、波浪やうねりの成長が大きく、特に海岸地域では高波による漁船、漁具、漁港施設に大きな被害が発生し、陸上では住家床下浸水 6 戸、一部破損 3 戸、非住家 9 棟のほか農作物、土木関係などに被害がでた。
42	昭和 56 年 5 月 19 日 (1981 年)	落 石	戸 賀	5 月 19 日 19 時頃、男鹿市戸賀で高さ 15m のところから縦 3m 横 2m の岩石が落下して住家を半壊する被害がでた。
43	昭和 56 年 6 月 22 日～23 日 (1981 年)	大 雨	全 域	6 月 22 日から 23 日にかけて、日本海西部に発生した低気圧が北東に進んだため、梅雨前線が北上し活発となり、22 日 6 時から 23 日 11 時までに本山 134mm を越える大雨となり、このため、住家の床下浸水が発生したほか、農地、農業用施設、農作物、治山、林道、土木関係などの被害がでた。
44	昭和 56 年 7 月 5 日～7 日 (1981 年)	大 雨	全 域	7 月 5 日から 7 日にかけて、梅雨前線の活発化と停滞により大雨となり、このため農地、農業用施設、治山などに被害がでた。
45	昭和 56 年 7 月 14 日～15 日 (1981 年)	大 雨	脇 男 鹿 本 中	7 月 14 日から 15 日にかけて日本海から進んで来た発達した雷雲のため、男鹿市では 1 時間に 37mm の雨量を記録した。このため治山被害がでた。
46	昭和 56 年 8 月 21 日～24 日 (1981 年)	台 風 (15 号) 大 雨	全 域	8 月 21 日東北地方に前線が停滞し、22 日には前線活動が活発化して大雨となり、23 日には、台風 15 号が房総半島に上陸し北上したため早朝から風雨が強まり、日中を中心に県内全域が暴風雨となり、降雨量は 181mm、瞬間最大風速 40m を記録した。このため、住家の一部破損 9 戸のほか農業、漁業、土木、文教関係施設などに被害がでた。秋田県に激甚災害並びに天災融資法が適用された。
47	昭和 56 年 11 月 2 日～3 日 (1981 年)	強 風	男 鹿 沖	11 月 2 日から 3 日にかけて、日本海を発達しながら北東に進んだ低気圧のほか、雨まじりの強風となり秋田地方気象台は、暴風雨波浪警報を発表した。このため、男鹿沖でイカ釣漁船 2 隻が遭難、3 名は救助されたが 1 名は行方不明となる被害がでた。

番号	発 生 年 月 日	災 害 名	発生地域	被 害 の 状 況
48	昭和 58 年 4 月 8 日 (1983 年)	火 災	男 鹿 中	4 月 5 日から異常乾燥注意報発令中、寒風山板場の台付近原野から 8 日 16 時 30 分頃発生した火災は、原野 7,000a を焼失し、消防署員 42 名、消防団員 156 人が出動、23 時 25 分鎮火した。
49	昭和 58 年 5 月 26 日 (1983 年)	地 津 震 波	全 域	5 月 26 日正午、晴天の中発生した日本海中部地震はマグニチュード 7.7 震度 5 の強震、沿岸には津波が来襲し、人命、建築物、土木関係など多方面に甚大な被害をもたらした。加茂青砂海岸においては、遠足に来ていた合川南小の児童が津波にさらわれ死者 13 名を出した。 男鹿市全体では死者 23 名、重傷 2 名、軽傷 24 名の犠牲者をだす大災害となった。
50	昭和 59 年 11 月 12 日 (1984 年)	火 災	船 川 港	11 月 26 日 6 時 20 分頃、船川港埋立地倉庫兼事務所から出火した火災は、発見の遅れ、建物内に建材等が多量にあり全焼 2 棟、部分焼 4 棟、焼失面積 1,049 m ² 、死者 1 名の犠牲者を出し 8 時鎮火した。
51	平成 2 年 9 月 19 日～20 日 (1990 年)	台 風 (19 号) 大 雨	全 域	9 月 19 日～20 日にかけて台風 19 号が接近し 158mm の大雨が降りこのため住家の床上、床下浸水などが発生したほか農地、農作物、土木関係などに被害がでた。局地激甚災害の適用。
52	平成 3 年 9 月 28 日 (1991 年)	台 風 (19 号)	全 域	9 月 28 日未明にかけて台風 19 号は秋田沖を通過最大瞬間風速 51.4m を記録した。住家及び農作物、漁業、土木、学校関係などに大きな被害がでた。
53	平成 4 年 10 月 7 日 (1992 年)	火 災	五 里 合	10 月 7 日 15 時 15 分頃、男鹿市神谷字石神で住家 1 棟 165 m ² が全焼、死者 1 名の犠牲者を出し、16 時 22 分に鎮火した。
54	平成 5 年 7 月 12 日 (1993 年)	地 震	全 域	7 月 12 日 22 時 17 分、北海道奥尻島沖を震源とするマグニチュード 7.8 の地震が発生し、男鹿市で震度 3 が観測され、また、津波は五里合、北浦、加茂で 1.0m 前後、船川、脇本で 80cm を記録したが、特に被害はなかった。
55	平成 7 年 1 月 10 日 (1995 年)	火 災	船 川 港	1 月 10 日 5 時 40 分頃、船川港船川字栄町から出火し、住家兼店舗など全焼 3 棟、半焼 1 棟、部分焼 1 棟が焼け、9 時 4 分に鎮火した。
56	平成 7 年 11 月 10 日 (1995 年)	道 路 決 壊	船 川 港	11 月 10 日夜間、県道男鹿半島線の門前地区で約 30m にわたり道路が決壊した。このため約 3 ヶ月の間通行止めとなった。
57	平成 8 年 7 月 18 日 (1996 年)	火 災	船 川 港	7 月 18 日 7 時 30 分頃、船川港船川字片田から出火し、住家 3 棟が全焼、3 棟が部分焼、非住家 1 棟が全焼して 8 時 40 分に鎮火した。
58	平成 10 年 6 月 26 日～27 日 (1998 年)	大 雨	全 域	6 月 26 日から 27 日にかけて降雨量が 100mm を超える大雨となり、住家の半壊や床下浸水、非住家の全壊等の被害が発生したほか、道路、河川、農地、農業施設、治山などにも大きな被害が発生した。

番号	発 生 年 月 日	災 害 名	発生地域	被 害 の 状 況
59	平成 10 年 8 月 7 日 (1998 年)	大 雨	船 川 港	8 月 7 日 3 時頃、双六地区で住家の裏山が幅 30m、高さ 25m にわたって崩落。住家に土砂が進入するなど、住家 2 棟が半壊した。
60	平成 11 年 9 月 24 日 (1999 年)	台 風 (18 号)	全 域	9 月 24 日から 25 日にかけて台風 18 号が接近し、強風による梨の落果など農作物や農業施設に被害があったほか、高波により魚の養殖にも被害が発生した。
61	平成 13 年 4 月 10 日～11 日 (2001 年)	火 災	寒 風 山	県内全域に乾燥注意報が出されていた 10 日、午後 1 時 05 分頃、寒風山南側斜面の麓付近から出火した原野火災は、強風にあおられように北側斜面にも延焼し、林野及び原野約 75ha を焼失し、約 15 時間後の翌日 11 日午前 4 時すぎに鎮火した。75ha のうち、林野は 12ha でこの被害額は、約 1 千万円以上にのぼった。 この火災で、男鹿市は対策本部を設置、県は、陸上自衛隊に災害派遣を要請、県警機動隊員を動員するなど、消防団等を含め約 900 名が徹夜で現地作業にあたった。
62	平成 13 年 12 月 30 日 (2001 年)	暴 風	全 域	県内沿岸部を中心に吹き荒れた強風により、屋根でアンテナ修理中、風でバランスを崩し、転落による負傷者 1 名や風に飛ばされた屋根トタンが送電線を破損し、約 17 千戸の停電、住家・非住家・公共建物の損壊等その被害額は、約 3 千 6 百万円にのぼった。
63	平成 16 年 8 月 20 日 (2004 年)	台 風 (15 号)	全 域	台風 15 号が 19 日、九州の西海上から強い勢力を維持しながら日本海を北東に進み、20 日未明に秋田県沖を通り、青森県を横断した。 このため、台風接近時を中心に暴風となり、沿岸では高波が続き、高潮をも発生した。秋田市では午前 3 時 39 分に最大瞬間風速 41.1m/s を記録、負傷者 9 名の他、住家、非住家、農作物等に多大な被害がでた。
64	平成 16 年 9 月 8 日 (2004 年)	台 風 (18 号)	全 域	台風 18 号が 7 日午後に山陰沖から日本海を北上しながら北東に進み、8 日午前 0 時頃最も接近し、北海道西岸を北上した。このため飛来物、倒木により停電が発生、交通機関にも影響が出た他、落果などによる農作物被害、農業施設、建物被害が被害を受けた。
65	平成 17 年 8 月 14 日～15 日 (2005 年)	豪 雨	全 域	8 月 14 日から 15 日の両日とも東北地方は低気圧の谷になっており、上空の寒気の影響で大気の状態が不安定になっていた。15 日午前 3 時すぎ、船川を中心とした市南側で 1 時間当たり 50mm を超える猛烈な集中豪雨があり、保量川、金川等が氾濫した。このため軽傷者 1 名、住家全壊 1 戸、半壊 2 戸、床上浸水 26 戸、床下浸水 39 戸、非住家 3 棟という被害が発生、避難勧告も発令された。その他がけ崩れが 12 箇所が発生、また、道路、河川など土木施設やまた文教施設も多大な被害を被った。この豪雨による被害額は 366,700 千円。

番号	発生年月日	災害名	発生地域	被害の状況
66	平成17年 12月 ～平成18年 1月 (2005～6年)	大雪	全域	12月は強い冬型の気圧配置となる日が多く曇りや雪の日が多かったため、秋田気象観測所の積雪観測地点では12地点中11地点において、最深積雪が12月としての1位を更新した。このため、住家の一部破損が24戸、非住家28棟、ビニールハウスの全壊などの農産施設被害が発生した他、市内全域で公共交通機関がストップ、市民の生活に大きな影響が出た。
67	平成19年9月 17日～18日 (2007年)	豪雨	全域	9月15日夜から18日昼過ぎにかけて日本海西部にあった温帯低気圧から暖かく湿った空気が、東北地方の北部に停滞していた前線に流れ込み前線の活動が活発化し、秋田県内は広い範囲で大雨になった。アメダス男鹿観測所では17日の日降水量163mm、船川では連続雨量203mmを観測し、保量川、金川等が氾濫した。このため、住家の床上浸水1戸、床下浸水7戸という被害が発生、避難勧告も発令された。その他がけ崩れが8箇所が発生、また、道路、河川など土木施設や農作物にも被害を被った。この豪雨による被害額は52,067千円。また、17日17時から18日6時30分にかけて羽立から男鹿中地区を対象に土砂災害警戒情報も発表された。
68	平成20年 6月14日 (2008年)	地震	全域	6月14日8時43分、岩手県内陸南部を震源とするマグニチュード7.2の地震が発生し、男鹿市で震度4が観測された。市道3箇所、下水道施設1箇所に被害があった。
69	平成20年 8月21日 (2008年)	大雨	全域	寒気を伴った低気圧が日本海中部に停滞し、8月21日未明から昼頃まで、秋田県沿岸部では局地的な大雨が降り、アメダス男鹿真山観測所では時間雨量32.5mm、24時間降雨量は158mmと8月としては観測史上最多となった。金川、滝川等が氾濫し、住家の床下浸水5戸、という被害が発生した。その他がけ崩れが3箇所が発生、道路や河川など土木施設や農林施設にも被害を被った。被害額は約35,876千円。また、椿地区等に土砂災害警戒情報も発表された。
70	平成21年 7月18日 (2009年)	豪雨	全域	発達した低気圧が日本海を東北東進し、この低気圧と前線には南から湿った空気が流れ込み、梅雨前線の活動が活発となった。このため、17日夕方から20日朝にかけて男鹿市を含む県内各地で大雨となり7月としての1位の記録をそれぞれ更新した。男鹿市では最終処分場の敷地内の法面崩壊や、男鹿中地区の水田が冠水した。また、数か所でがけ崩れや護岸の崩落が発生するなどし、被害額は18,198千円となった。
71	平成22年4月 13日～14日 (2010年)	暴風	全域	爆弾低気圧の発生により、住居の一部損壊（屋根トタン剥離）が2棟、非住家で1棟被害を受けたほか、暴風によりビニルハウス等農業施設

番号	発 生 年 月 日	災 害 名	発生地域	被 害 の 状 況
				が被害が多く発生した。但し市全体的には大きな災害とはならなかったが、剥離した屋根の補修を行っていた市民が屋根から転落し死亡する事故が発生した。被害総額は約 7,113 千円。
72	平成 23 年 3 月 11 日 (2011 年)	地 震	全 域	3 月 11 日午後 2 時 46 分に太平洋の海底を震源とする東北地方太平洋沖地震が発生した。地震の規模はM9.0 で最大震度は 7、日本周辺における観測史上最大の地震となった。震源は広大で南北 500 k m、東西約 200 k m、東北から関東にかけての広範囲となった。この地震において特に目を引くのは、波高 10m 以上、最大遡上高 40m 以上にもなった津波であり、太平洋沿岸の自治体では壊滅的に破壊され、甚大な被害が発生した。また、その影響は原子力発電所の放射能の漏えいを引き起こし、多くの避難住民を生み出すことにもなった。男鹿市としては大きな災害にはならなかったが、地震直後から全市が停電し、192 戸で断水が発生、ライフラインに影響が出た。市内 9 か所で避難所も開設されたが停電復旧に伴い 13 日には閉鎖された。この他、被災地への支援物資の提供や支援職員を派遣するなど、復興への支援を行った。
73	平成 24 年 4 月 3 日～4 日 (2012 年)	暴 風	全 域	急速に発達しながら日本海を東北東に進んだ低気圧により、西日本から北日本の広い範囲で記録的な暴風となった。暴風の目安となる風速 20 メートルを超えた観測地点数は 78 地点に達し、観測地点 889 地点中 75 地点で観測史上 1 位を更新した。こうした中男鹿市では、4 月 4 日に男鹿市災害対策警戒部を設置、被害情報の収集と対応に迫られた。被害は特に農林水産業に大きなダメージを与え、船舶 33 隻、農地・農業用施設で 1,044 箇所、水産施設 133 箇所に上った。また、住家 219 棟が一部破損、非住家 42 棟が被害に遇い、被害総額は約 1 億 5 千万円に上った。
74	平成 25 年 9 月 16 日～17 日 (2013 年)	台 風 (18 号)	全 域	暴風域を伴った大型の台風 18 号は、発達しながら日本の南海上を北上し、総雨量は統計期間が 10 年以上の観測地点のうち、最大 1 時間降水量で 13 地点が統計開始以来の観測史上 1 位を更新した。県内では県中央や北部で豪雨となり、仙北市で大規模な土砂災害が発生し 6 名の方が亡くなった。また、男鹿市においても、男鹿真山で観測史上 1 位の雨量を記録し、真山地区のため池が決壊。これに伴い下流の北浦地区の一部には避難勧告が出される等、多くの被害が発生した。
75	平成 30 年 5 月 18 日～19 日 (2018 年)	大 雨	全 域	前線が東北地方に停滞し、前線上の低気圧に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定になった影響で、秋田県全域で記録的な大雨となった。男鹿市では、24 時間雨量で 153.5 mm、アメダス男鹿真山観測所では時間雨量 46 mm の激しい雨を観測した。この大雨の影響による土砂災害では、住家被害が脇本浦田、樽沢

番号	発生年月日	災害名	発生地域	被害の状況
				地区で全壊各1棟、門前地区で住家の一部損壊1棟、公共施設では椿公民館倉庫1棟が全壊、住家裏山等で山腹崩壊、法面崩落が23箇所が発生した。また、比詰川や保量川等の河川氾濫や排水不良等により、住家床上浸水4棟、住家床下浸水18棟、非住家浸水16棟で被害にあった。このほか、市道や護岸の崩落、農地や農道などの農業施設被害、漁港内への土砂流入、林道等にも被害がするなどし、被害額は279,780千円となった。
76	令和5年7月14日～16日 (2023年)	大雨	全域	梅雨前線が東北北部に停滞し、前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだため、14日から16日にかけて、白神山地や太平山地付近を中心に、県内は広い範囲で大雨となった。 総降水量は、県内の多い所で400mmを超え、解析雨量では局地的に約500mmとなるなど記録的な大雨となり、藤里、男鹿、秋田、秋田市岩見三内、秋田市仁別、角館では、72時間降水量が観測史上1位を更新した。 男鹿市では、アメダス男鹿観測所で、24時間雨量243.5mmの激しい雨を観測した。この大雨の影響により、半壊が住家1棟、床上浸水が住家12棟、非住家2棟、床下浸水が住家23棟、非住家1棟、一部損壊が住家3棟の被害となった。 また、7月15日には、茶臼峠で土砂災害が発生し、茶臼配水池への送水管が破損した。これにより、船川・男鹿中地区3,614戸で5日間に及ぶ断水が発生した。 このほか、道路、公共施設、農林水産業、土木施設などにも被害がするなどし、被害額は4,222千円となった。男鹿市に災害救助法が適用された。